愛知国際アリーナ課の主な取組

愛知県スポーツ ١٠V

1 IGアリーナ(愛知国際アリーナ)の概要

現体育館は、施設の老朽化とともに、規模・機能がスポーツの国際大会を開催するため の国際水準を満たしていない。2026年のアジア・アジアパラ競技大会に利用できるよう、 2025年7月のグランドオープンに向けて新体育館の整備を進めている。

(1) 事業計画地

名城公園北園の一部 約46,000 m² (名古屋市北区名城1丁目2)

(2)規模等

建築面積 約 26,500 ㎡ 延床面積 約63,000 ㎡ (地上5階) 最高高さ 41.0m 最大収容人数 17,000 人(立見含む)

(3) 事業手法

PF I 手法の「BTコンセッション方式」により、 設計・建設から維持管理・運営を一体として民間事業者が実施

(4) 事業期間

設計・建設 2021年6月~2025年3月(3年10か月) 維持管理・運営 2025 年 4 月~2055 年 3 月 (30 年)

(5) 事業者

株式会社愛知国際アリーナ

代表企業:<設計·建設時> 前田建設工業株式会社

<維持管理・運営時> 株式会社NTTドコモ

その他の: Anschutz Sports Holdings (Anschutz Entertainment Group)

出 資 者 三井住友ファイナンス&リース株式会社 等

(参考) ネーミングライツパートナー

(株)愛知国際アリーナが、IGグループと契約を締結したことを発表(2024年2月)

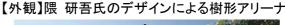
2 主な施設

(1) メインアリーナ

ハイブリッドオーバル型 (オーバル型+馬蹄型)の 観客席と30m以上の天井高さを確保

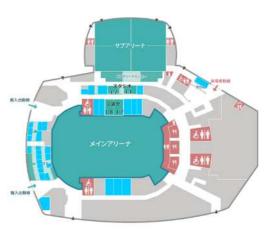
(2) サブアリーナ

県民のスポーツ活動や文化活動の拠点となるサブア リーナやスタジオ等を整備





©AIA Corporation



3 維持管理・運営

- 最新技術を活用した維持管理システムを導入し、計画的にアップデートすることで、 常に最先端のスマートアリーナとし、顧客満足度を最大化
- 世界最先端のスマートアリーナにふさわしい最新の観戦・鑑賞体験をセンタービジョンや国内アリーナ最多相当数のモニターなどを配置して演出
- ICTを活用して、AR観戦やマルチアングル観戦など、非日常的な体験を提供

4 利用料金の主な内容

(税込)

区分	メインアリーナ	サブアリーナ
(※)—般 利用	【平 日】 825 千円 【土日・休日】 1,100 千円	【全部利用】68 千円、 【1/2利用】 34 千円 【1/4利用】17 千円
興行 利用	【平 日】 8,800 千円 【土日・休日】 14,300 千円	<全部利用> 【平日】 1,210 千円、【土日・休日】1,804 千円 <1/2利用> 【平日】 605 千円、【土日・休日】 902 千円

※営利を目的としないスポーツ、学校教育又は社会教育を行うための利用

5 スケジュール

2021 年度 : 契約、設計

2022年度~: 設計、建設工事(7月着工)

2024年度末: 竣工・引渡し(3月)

2025年度 : 内覧会、開業式典等(5月)

グランドオープン「大相撲名古屋場所」(7月)

Bリーグ「名古屋ダイヤモンドドルフィンズ」開幕(秋)

フィギュアスケートグランプリファイナル(12月)

2026 年度 : アジア・アジアパラ競技大会(2026/愛知・名古屋)(9月~10月)

【大相撲時イメージ】

【バスケットボール時イメージ】







